

## ヒューマンライブラリー（仮称）について

### 1 ヒューマンライブラリー（仮称）の名称について

- ①ひとひと講座
- ②ひとひと対話講座
- ③障害を知ってもらい隊
- ④「障害ってなんだろう」や「障害って多様」ということが伝わる名称
- ⑤Diversity gallery（ダイバーシティ・ギャラリー）
- ⑥彩（いろどり）ライブラリー
- ⑦もっとあなたを知るライブラリー

### 2 ヒューマンライブラリーのスキームについて

#### （1）埼玉県内の類似事業の現状

##### ①埼玉県社会福祉協議会

地域福祉推進プラットフォームの構築

##### ②市町村社会福祉協議会

福祉協力校（推進校）指定制度、福祉用具等の貸し出し

学校・教育委員会との情報交換・協議及び研修、学校運営協議会（コミュニティスクール）との連携等

福祉教育プログラム

アイマスク体験、点字体験、ガイドヘルプ体験、車いす体験、手話体験、  
盲導犬学習、盲導犬ユーザーの講話と寸劇、メッセージライブ  
一緒に給食を食べる、当事者の話を聞く

##### ③当事者理解講座

###### ●心のバリアフリー研修・障がい理解研修等（NTT クラルティ）

- ・心のバリアフリー研修
- ・障がい理解研修

<https://www.ntt-claruty.co.jp/business/sitecheck.html>

###### ●障がい者講師等派遣事業（札幌市）

- ・ふくしの出張講座（当事者講師派遣）
- ・障がい者講師養成講座

<https://www.sapporo-shakyo.or.jp/activities/volunteer/diversity/>

###### ●障害当事者講師の紹介窓口（国土交通省）

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/content/001338341.pdf>

###### ●障害理解サポーター養成研修（仙台市）

<https://www.city.sendai.jp/kenkokikaku/kurashi/kenkotofukushi/shogai/torikumi/suporter.html>

###### ●障害平等研修フォーラム

<https://detforum.org/>

(2) 埼玉県内小中学校の令和3年度「総合的な学習の時間」の実施状況

①埼玉県教育局（義務教育指導課、高等学校指導課等）活動や学習

県立小学校（807校）、中学校（417校）、高校（145校）

県立小学校では、3年生から6年生のうちの1年間で「総合学習」の授業において「福祉」に関する授業を行うことになっている。

②令和3年度「総合的な学習の時間」の実施状況（小学校）

「総合的な学習の時間」主な探求課題の内容（実施校数【複数回答】）

	国際理解	情報	環境	福祉
3 学年	94	353	274	68
4 学年	92	325	331	579
5 学年	184	376	437	158
6 学年	315	351	144	81

「総合的な学習の時間（福祉）」に関する体験活動（実施校数【複数回答】）

	車いす 体験	アイマス ク体験	手話 体験	点字 体験	高齢者 疑似体験	難聴疑 似体験	介護 体験
3 学年	18	20	32	20	17	2	4
4 学年	474	480	314	391	263	54	59
5 学年	90	71	39	49	66	18	22
6 学年	35	23	13	8	30	6	19

地域人材の活用状況

（実施校数【複数回答】）

保護者	地域 住民	社会教育 関係者	行政関 係者	NP0 関 係者	民間企業 関係者	学識経 験者	高校・大 学関係者
298	445	359	228	94	102	34	42

③令和３年度「総合的な学習の時間」の実施状況（中学校）

「総合的な学習の時間」主な探求課題の内容（実施校数【複数回答】）

	職業・キャリア	情報	環境	福祉
１学年	273	140	136	125
２学年	309	116	127	122
３学年	269	122	93	95

「総合的な学習の時間（福祉）」に関する体験活動（実施校数【複数回答】）

	車いす 体験	アイマス ク体験	手話 体験	点字 体験	高齢者 疑似体験	難聴疑 似体験	介護 体験
１学年	60	68	28	21	35	6	12
２学年	66	46	34	24	31	5	14
３学年	30	30	31	13	30	4	14

地域人材の活用状況

（実施校数【複数回答】）

保護者	地域 住民	社会教育 関係者	行政関 係者	NP0 関 係者	民間企業 関係者	学識経 験者	高校・大 学関係者
83	165	97	78	45	72	15	63

（３）ＤＥＴ埼玉と県政出前講座の実施状況

【ＤＥＴ埼玉】（令和３年度１２月末現在）

令和元年度 ２９件（小中学校７件、一般２２件）

令和２年度 １４件（小中学校５件、一般９件）

令和３年度 ３４件（小中学校１５件、一般１９件）

（具体的課題）

- １．車いすユーザーが伺う場合の、トイレ、スロープ等のバリアフリー状況
- ２．車いすユーザーの駐車スペースの確保
- ３．重度障害者（電動車椅子ユーザー）の移動の確保、タクシー代の負担大

【埼玉県県政出前講座】（令和３年度１２月末現在）

（１）障害者の手帳制度について

令和元年度 ４回（小学校事務１回、保護者１回、警察官２回）

令和２年度 ２回（警察官２回）

令和３年度 ２回（警察官２回）

（２）障害者差別解消法、共生社会づくり条例のポイントについて

令和元年度 ５回（障害者団体１回、警察官４回）

令和２年度 ２回（警察官２回）

令和３年度 １６回（障害者団体２回、警察官１４回）

（具体的課題）

- ・日程調整等に関して問題はない。
- ・新規ユーザーからの講演依頼がなかなか増えないこと。
- ・警察官向けの研修は好評であり、多くの依頼をいただいている。

### (3) 障害者への理解促進と差別解消に向けた運用

#### ①ヒューマンライブラリーの構成

(image1 を参照)

ヒューマンライブラリー（仮称）の講師を中心に各団体の講師（D E T 埼玉や市町村社会福祉協議会等）の情報を集約化した、「マッチングシステム」と「障害者理解の学習サイト」を統合した Web サイトを構築する。

講師情報については、「メイン」となるヒューマンライブラリーの講師をメインコンテンツとし、特化したテーマについてお話しいただく、アスリートやアーティスト等の「スペシャル」、現在も各方面で講師として活躍されている団体等の講師（D E T 埼玉や市町村社会福祉協議会等）の「オプション」の3つのカテゴリーによる構成とする。

この Web サイトにより、学校や企業、地域コミュニティを中心とした多くの県民に見ていただき、障害当事者による講演を受けていただくとともに、障害者理解を深めていただく。

#### ②申し込み方法

(image2 を参照)

##### 【申し込みの手順】

- ①WEB サイトに Speaker の情報を掲載（随時情報を更新）
- ②User は Speaker にメールで連絡
- ③日程や講演内容について打ち合わせ
- ④講演実施
- ⑤User はユーザーレコメンドの記入

##### 【Speaker の掲載情報】

- ・プロフィール
- ・講演実績
- ・講演タイトル
- ・講演内容
- ・講演料金の目安
- ・ユーザーレコメンド
- ・連絡先（E-mail）

※Speaker は個人、団体での登録を可とする。

※ユーザーと講演について直接やり取りするのが難しい Speaker については、連絡先を事務局にするなど、speaker の希望に応じる形で対応する。

##### 【マッチングサイトの掲載情報】

- ・講演ジャンルやその内容
- ・これまでの講演実績
- ・新着講師の情報

※講師のモチベーションを高めたり、利用者側が講師選定の参考となるような掲載内容とする。

### ③プロジェクトチームの編成

(image3 を参照)

メインとなるヒューマンライブラリー（仮称）を進めていくうえで、以下のプロジェクトチームを編成する。

#### 【クリエイターチーム】

講義のコンテンツを制作するチーム

佐藤会長、埼玉県、Aチーム委員（数人）

#### 【コーディネーターチーム】

システム全体のマネジメントやコーディネートを行うチーム

埼玉県、佐藤会長、Aチーム委員（数人）

#### 【トレーナーチーム】

Speaker の育成や発掘を行うチーム

佐藤会長、埼玉県、D E T 埼玉（協力）、県社会福祉協議会（協力）

※講義のコンテンツ制作については、まずはクリエイターチームで、すべての障害特性に共通する事項のものを作成し、ワーキングチーム及び施策推進協議会の委員に内容を確認してもらう。その後、各障害特性に関する事項を作成する際には、各団体からの意見をいただきながら作成していく。

### ④コンテンツの概要

(image4 を参照)

ヒューマンライブラリー（仮称）の理念及びビジョンは「相互理解の促進」、「差別の解消」、「多様性の理解」とする。

講義の構成を「必須事項」と「任意事項」から構成する。

講義の中に統一的な必須事項を組み込むことにより、ヒューマンライブラリー（仮称）のブランドを創出する。

トークスキルに長けていない speaker でも一定のクオリティーを保つことが可能となる。

※必須事項についてはクリエイターチームがコンテンツを制作する。

### ⑤年代・対象・時間別のコンテンツパターン

(image5 を参照)

開催回数 1 回の場合について、年代別（社会人、中学生、小学生）にパターンを例示。

学校における「総合学習の時間」などで、開催回数が複数回の場合はコンテンツの組み合わせによるパッケージ（カスタマイズ可能）も用意する。

### ⑥本格運用までの流れ

(image6 を参照)

①クリエイターチームによりコンテンツを制作する。

②コンテンツの内容についてワーキングチームで検討する。

③学校などに協力していただき、実際に Speaker が講演するテストを実施。

④コーディネーターチームによる検証及び改善。

⑤本格運用。

## ⑦Speaker の育成

(image7 を参照)

Speaker のレベルを A・B・C の3段階に分ける。

A＝上級

講師として多くの講演を行い、ユーザーからの高評価を獲得した人。  
初級者や中級者の育成も行う。

B＝中級

ファシリテーターやアシスタントに慣れて、講演ができるようになった  
段階で講師としてデビュー。

C＝初級

中級・上級の講師の講演にファシリテーターやアシスタントとして参加  
しながらスキルを習得する。

※初期段階ではDET埼玉や他の団体（例えば市町村社協）等の協力を得  
ながら speaker のスキルを見極めていく。既に各方面で多くの講演を行わ  
れている方のもとでその講演のお手伝いをしながら、レベルが上がる段階  
で本人の講演の様子をビデオ撮影してもらい、トレーナーチームで判定す  
る。

## ⑧「相互理解の強化」への連携・展開

(image8 を参照)

ヒューマンライブラリー（仮称）を中心に県社会福祉協議会や市町村社会福  
祉協議会、各障害者団体、市町村障害福祉担当、あったかウェルネット、DET  
埼玉などと連携し、学校や企業、地域コミュニティなどを中心としたターゲ  
ットに「相互理解の強化」を展開していく。

この連携を進めていくことで、①関係機関のパートナーシップの強化、

②ユーザーへのタッチポイントの多様化、③多彩なプログラムの提供などに  
より、多くの県民の障害理解の学びの機会が向上する効果が期待できる。

## ⑨プロモーションの流れ

(image9 を参照)

①Web サイトや SNS などによりヒューマンライブラリー（仮称）の存在を  
ターゲット（学校や企業、地域コミュニティなど）に知らせる。

②Web サイトや SNS、教育局の会議や社会福祉協議会プラットフォームなど  
でPRを行い、ヒューマンライブラリー（仮称）の特徴を伝えて、分かっ  
てもらう。

③動画によるCMや企業訪問（障害者差別解消施策）、共生社会づくり事業  
者説明会などでPRし、ターゲットの興味や意欲を高める。

④ターゲットに講演を受けてもらう。

（講演の際に Web サイト紹介チラシを配布）

⑤ターゲットにリピーターになってもらう。

一度受講した団体（学校、企業、地域コミュニティ）に新着情報を送る。

## ⑩ヒューマンライブラリーのロードマップ

(image10 を参照)